

(様式1)

授業科目 聴覚障害Ⅰ演習

科目コード番号

【担当教員名】 山口富一	対象学年 2	対象学科 言語
	開講時期 後期	必修・選択 必修
	単位数 2	時間数 30

## 【概要及び学習目標】

## &lt;概要&gt;

耳鼻臨床、特に難聴、言語障害の診断治療で欠くことのできない聴覚検査について学習する  
講義と聴覚検査の実習や実技を通して聴覚が障害される問題を的確に評価・診断するための基本について学ぶ  
出席や授業中の態度を重視する。授業を聞くだけという態度でなく自分が検査者になるという主体的な態度で積極的に学習すること。

## &lt;学習目標&gt;

- ・聴覚検査のための予備知識から聴覚検査の理論と実際について理解する
- ・各種聴力検査法ができるようになる。
- ・聴力検査の所見から聴覚経路のどこが悪いのか、どのように悪いのか、社会適応との関係はどうか等の診断・評価ができるようになる

回数	学習の主題	学習内容	学習方法
1	耳の構造と機能	外耳・中耳・内耳・蝸牛神経・神経伝導路・神経核・聴皮質	講義
2	難聴とは	伝音難聴と感音（内耳性）難聴	講義
3	感音難聴の種類と原因	遺伝性難聴、騒音性難聴、メニエル病、突発性難聴など	講義と実習
4	混合難聴と後迷路性難聴	混合難聴とは、後迷路性難聴の臨床分類・背景疾患の診断名	講義と実習
5	音の基礎知識	音とは何か、物理量としての音、デシベル尺度、感覚量としての音等	講義と実習
6	オージオメータ	オージオメータの構成・保守、点検、整備・取り扱い上の注意	講義と実習
7	聴覚検査の実際	検査者の心構え、純音聴力検査、骨道聴力検査	講義と実習
8	聴覚検査実習	学生同士が検査者、被験者になり検査をする	実習
9	マスキングと自記オージオメトリー	マスキングとは何か、マスキングが必要な理由。自記オージオメータの構造・検査方法、Jergerの分類と臨床的意義	講義と実習
10	閾値上聴力検査	補充現象と補充現象の検査（バランステスト、DL検査、SISI検査、MCL検査、UCL検査）	講義と実習
11	閾値上聴力検査実習	検査者、被験者になり検査実習をする	実習
12, 13	語音聴力検査	語音を用いた聴力検査、検査の原理と意義、語音による閾値上の検査、標準語音聴力検査テープ・CD、検査方法、SRT、語音弁別検査	講義と実習
14	語音聴力検査実習	検査に関する注意と検査実習	実習
15	語音聴力検査実習とまとめ		講義と実習

## 【評価方法】

出席・実習の態度・レポート・定期試験から総合的に評価する。

## 【履修上の留意点】

## 【使用図書】

教科書・参考書等	書名等	著者名	発行所	発行年・価格・その他
教科書	聴覚検査の実際	日本聴覚医学会編	南山堂	1999年. 3400円 ISBN: 4-525-37041-6
参考書				
その他 (プリント等)				